

編集後記

もうすぐ、冬期オリンピックです。ジャンプの高梨さん、ここ数年世界トップの座を維持してきましたが、前回のオリンピックも含めてシーズン後半に調子を落ちることから、今シーズンはオリンピックに合わせてスロースタートで迎えたものの、急成長の外国選手が現れて思うように成績が出ないまま本番を迎えることになりました。予想したより実験が進まないまま迎えた学会発表とは比較になりませんが、彼女の落ち着いた表情の向こうには相当なプレッシャーがあるのは容易に想像できます。この編集後記がお手元に届く頃には結果がどうなっているのか。

さて、今回の物性研だよりでは、客員所員の記事が3つありますが興味深く読まさせていただきました。お3人とも物性研にゆかりがある方で昔話から歴史が垣間見えるお話があり、また、携帯が繋がらないゲストハウスが研究に専念できる最高の環境というくだりでは、思わず吹き出してしまいました。一方で、客員所員の方の交流が無いというご指摘や、地方の大学の方のお立場からのお話は、共同利用研の運営側にとって貴重なご意見です。短期研究会の報告では、光電子分光の今後の発展について、主催者の熱意が感じられる気合いの入った記事になっています。順番が逆になりましたが、松田巖先生のディラックノードルラインの記事では、その研究の経緯も書かれて楽しく拝見できるとともに、「表面科学のルネサンス」と銘打たれているだけあり、既に Citation も上がっているようです。以前の編集後記でも述べましたが、最近プレスリリースが急増しています。その勢いそのまま、物性研だよりも是非ご協力頂ければと思います。

鈴木博之

